

HOT! NEWS

①

地方創生ワカモノ会合in名古屋 SDGsまちづくりアイデアコンテストで 「優秀賞」受賞

地域で活躍する、地域を元気にするヒントが見つかる地方創生ワカモノ会合が、全国8か所で開催されました。全国の中学生・高校生から募集した「SDGsまちづくりアイデアコンテスト」で見事「優秀賞」を受賞。受賞したチームのSus-Teen!によるプレゼンテーションが実施されました。



OGURA Ayano

2019年11月9日に内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局と内閣府地方創生推進事務局主催の「SDGsまちづくりアイデアコンテスト 地方創生ワカモノ会合 in 名古屋」の表彰式が行われました。テーマは「SDGsで、地域は変わる。」名古屋国際高等学校からはチーム「Sus-Teen!」として中高一貫コース4年生の石川愛子さん、伊藤衣音さん、大島梨紗さんがエントリーし、全国186作品の中から見事「優秀賞」を受賞。名古屋にはたくさん魅力があるはずなのに、気づいていない、アピールしきれていない、という点に焦点を当て、「ええがや！ナゴヤ！」と表し、「三英傑」を生んだ歴史に着目した「那古屋の星」や、伝統野菜である八事五寸人参を使った「No! 歩きスマホ Yes! 歩きにんじん」というプロジェクトを提案しました。この様子はCBCやネットニュースなどのメディアで取り上げられました。

HOT! NEWS

②

フランスの名門校 ジョルジュクレモンソー高校との 国際交流が始まります

本校の小林校長・佐野 淳先生・大西 直子先生が、フランス・ランス市のクレモンソー高校を訪問しました。



SANO Atsushi

名古屋とランス市は2017年に姉妹友好都市の関係を締結しました。これを受けて、名古屋国際中学校・高等学校は、ランス市教育委員会公認の唯一日本語が学べる高校であるジョルジュクレモンソー高校とグローバルパートナーシップの締結を終えました。2019年10月24日にクリスチャン・ベルホウ校長(写真左から3番目)とともにランス市役所へ表敬訪問し、ベンジャマン・ドゥブレイ副市長(写真右から3番目)へ日仏の新しい交流を報告しました。2020年10月にクレモンソー高校の生徒が日本を訪問し、2021年3月に本校の生徒がフランスを訪問することが決まりました。本校ではクレモンソー高校と交流を希望する生徒を募り、フランス語の勉強を始めます。すでにクレモンソー高校では45名の生徒が日本語のクラスを選択し、本校に手紙を送る準備をしているそうです。本校でも、手紙をフランス語で書いたり、フランス語会話の練習をしたり、有意義な交流ができる準備をしています。さらに、クレモンソー高校の生徒が来日の時には、ホストファミリーとしてもお迎えします。

THE FRONTIER TIMES Report

「マスフォーラム(数学生徒研究交流会)」に 国際生2名が参加し、ポスター発表



2019年12月14日(土)に横浜サイエンスフロンティア高等学校で「マスフォーラム(数学生徒研究交流会)」が開催され、本校国際コンテストクラブの部員である中高一貫コース4年生のジヤ・ジュンユンさん、高等学校国際教養科1年生の松村桜子さんの2名が参加し、ポスター発表をしました。マスフォーラムは、数学に関する研究発表を通して数学への興味・関心をさらに高め、次世代の数学研究者のネットワークを広げ将来の数学研究に寄与することが目的で、多くの学校から数学に興味の深い生徒達が参加します。本校からの参加は昨年度に続き

2度目で、昨年度は高等学校国際教養科3年生の太田彩香さんが『相性度』というテーマでホール発表をし、高い評価を頂いています。今回の参加校は、横浜SFH、海城、東京芸大附属、筑波大付属駒場、都立小石川、東工大附属、市川で、5本のホール発表と33本のポスター発表がありました。また、横浜国立大学副学長の根上生也先生による「世界は数学でできている」という演題の基調講演もありました。根上先生は位相幾何学的グラフ理論が主な専門で有名な先生です。



▲発表内容はこちら

Hot! Information

2019年度 地域協働事業(グローバル型) 成果報告会開催のお知らせ

文部科学省は、市町村・高等教育機関・産業界等とのコンソーシアムを構築し、地域課題の解決等の探究的な学びを実現する取組を行う「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」を開始しました。本校は「グローバル型指定校」(全国で20校)として、グローバルな視点を持った地域のリーダー育成を目的としたカリキュラム開発を行います。本校独自のテーマに「持続可能なランドスケープの設計 ～天白川水系から世界を俯瞰する～」を掲げ、生活に欠かさない「水」を通して社会課題や未来のまちづくりを研究します。

【日 程】 2020年2月15日(土)
【時 間】 13:00～14:35(12:30開場)
【場 所】 名古屋国際中学校・高等学校
愛知県名古屋市中区広路本町1-16
【定 員】 200名
【申 込】 本校ホームページより随時受付中
【テーマ】 持続可能なランドスケープの設計
～天白川水系から世界を俯瞰する～

【スケジュール】
13:00～ 開会(12:30開場)
13:10～ 全体会
13:25～ ポスターセッション/生徒成果報告会
14:25～ 講評[伊藤 博氏(名古屋商科大学経済学部教授)]
14:35～ 閉会
※閉会後、情報交換会を行います。(希望者のみ)

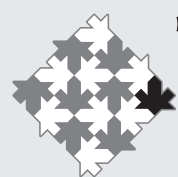


▲予約はこちら

名古屋商科大学 発行 名古屋国際中学校・高等学校
NAGOYA INTERNATIONAL JUNIOR & SENIOR HIGH SCHOOL
所在地 〒466-0841 名古屋市中区広路本町1-16
発行数 年間4回
制作 学校法人栗本学園 名古屋国際中学校・高等学校
学内広報チーム
デザイン cluch on cluch Co., Ltd.
企画協力 株式会社 イーブレイン

TIMES 設置配布場所
名古屋国際中学校・高等学校事務局前/名古屋商科大学 中央情報センター

広報紙「THE FRONTIER TIMES」に関するご意見・ご感想は tt@nihs.ed.jp までお送りください。本紙に掲載されている記事、画像など全てのコンテンツの著作権は名古屋国際中学校・高等学校に帰属します。私的使用以外の目的で複写・複製することはできません。
202002035000



THE FRONTIER TIMES

【フロンティア・タイムズ】



WADA Saki

▲2019年12月6日エコプロダクツでの発表の様子(三菱電機グループブース) @東京ビックサイト

“Inquiry-Based Learning”-is it for you?

Have you ever attended a class where the students were leading the class more than the teacher? The answer is most likely “no.” In many countries and schools, the model of education or the style of a typical classroom is that the students are passive listeners and the teacher is the leader of all answers and discussions. However, with Inquiry-based Learning, this is not the case at all. According to the idea of Inquiry-based learning, it is in fact the students who would be leading class discussions and generating questions of their own, with the teacher being a facilitator of class investigations and discussions. This is certainly a unique setting for a classroom, but what are the potential benefits of implementing Inquiry-based learning?

For starters, students who engage in Inquiry-based Learning gain hands-on experience with valuable critical thinking skills

which are necessary for their university education and future careers. Students in Inquiry-based Learning environments are presented with a scenario or case study and tasked to generate their own critical questions about how they would handle a given situation or how they might approach a specific problem. Group discussion allows students to gain valuable practice in evaluating the varying proposals of other students as well as with team-building and social skills. In a society where everything is interconnected by the internet and the collective sum of human knowledge is at one's fingertips, the ability to think critically and flexibly about all the available information is crucial for student success in the 21st century.

Moreover, Inquiry-based Learning helps students to practice and refine research skills. Society is oftentimes an interconnected variety of problems involving several fields

of simultaneous study. Students of Inquiry-based Learning are trained to utilize the thinking space of the unknown to generate unique solutions to such interconnected problems. Lateral thinking and innovation can be generated and cultivated through the Inquiry-based Learning approach which encourages students to learn by getting their hands dirty with concepts and to not shy away from challenging problems. As it pertains to the International Baccalaureate Diploma Programme, the connection with Inquiry-based Learning is an obvious one--“Inquisitive” is one of the ten IB Learner profile traits. However, Inquiry-based Learning takes it a step further. While it may be sufficient to maintain a healthy sense of inquiry for the IB Learner Profile, Inquiry-based Learning forces students to become active inquirers, hungry for knowledge and unafraid of asking the tough questions.